病棟内・内観療法面接者の熟達に関する研究

―熟達面接者からのインタビューを通して―

札幌太田病院

公認心理師・臨床心理士　　医師

川嶋咲世　　**神廣憲記**

はじめに

- **内観療法**

  吉本伊信の「内観法」を医療現場に応用した精神療法

  当院では1974年に入院患者への精神療法として導入

  - **内観学会にて内観面接士資格制定(2018)**

  ↓

  面接者の在り方(関わり方・意識)が議論*1

- 高橋美保(2020.2021)*2, 教育プログラム探索的研究

  ⇒指導者・熟達面接者の関わり方にもばらつきがある

内観療法プログラムを考える上では

⇒個々の面接者の経験や背景を調査

初学者のレベルに合わせることが必要

*1本山陽一,他 (2021)　「特集　内観面接者の在り方」内観研究27(1)p19-32

*2高橋美保･(2020)「「若手内観面接者の面接者としての困難に関する探索的検討」内観研究26(1)33-46/高橋美保(2021)「熟達面接者の内観面接の理解と実践に関する探索的検討」内観研究27(1)45-59

当院の内観療法教育の現状

これまでの教育システム

マニュアル＋内観面接場面での経験
→指導者からの指導・ケースを通した学習

現在の内観療法実践の場(部署)の現状

- **内観者数(経験)の減少**
- **面接者・指導者の減少**
- **実践する共同体(専門部署)の変遷**

本研究の目的

①どのように熟達者となるのか？
②それは、どのような熟達者か？
↓
当院での初学者に対する教育システムを検討するポイントを整理する

方法

- **対象者**

  １０年以上の内観面接者　２名

- **調査方法**

  インタビュー調査；内観療法熟達に関するの研究

  質問項目；「内観面接の経験内容」

  「内観療法から学んだこと」など

- **分析方法**

  ・インタビュー内容の逐語録を作成

  ・SCAT(Steps for Coding and Theorization)*3分析

  ・学習理論に基づいて結果・考察を解釈(正統的周辺参加理論) *4*5

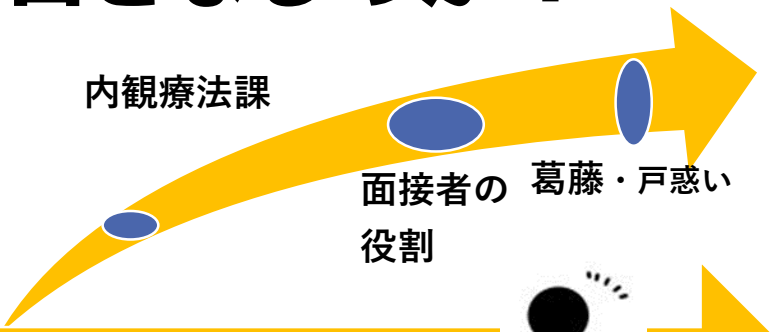
  研究の信頼性と妥当性の確保

  SCATに精通した第二筆者と分析結果･考察を協議

*3　大谷尚(2011)　Step for Coding and Theorization　感性工学10(3)p115-160
*4　Lave, Jean; Wenger, Etienne (1991), Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation, Cambridge University Press, ISBN 0-521-42374-0
*5　西城卓也(2012)　正統的周辺参加論と認知的徒弟制　医学教育43(4) p 292-293

結果①どのように熟達者となるのか？

経験と学習内容



内観療法実践の共同体に参加(部署)

○指導者-被指導者関係

○共同体内の初学者

面接者の役割(学習内容・能力)

○“標準”的知識

○“標準”的態度

○“標準”的技術

葛藤・戸惑い

○内観療法の疾患に対する限界

○内観療法に対する戸惑い

○患者に対する戸惑い

内観面接者の役割・一部抜粋(学習内容)

“標準的”知識	内観の効果っていうのは、あくまでも自分を調べるんだって。お母さんがどんな人間だったかなんて調べるものではない **(内観とは)**／内観はきちんとした枠組みがあるから、比較的やりやすい脱線しずらい **(内観の基本的な３問)**
“標準的”態度	「母を調べて」って言った面接者がいた。もちろん自分を調べるのはわかっているけど、はしおってしまった。きちんと正確にしないといけないということ、いい加減な対応はしちゃいけないと学びました**(言葉の選ぶ重要性)** **‥他**、
“標準的”技術	その方にわかる言葉で答えていただく。養育費計算とか。何%とか、例えば、子どもとしての自分は何点？、どんなところ？と聞く**(内観を深めるための質問)…他**

結果②どのような熟達者か？

内観療法効果・限界
(治療的意味づけ)

- 認知変容の効果　家族関係の変化
- 内観3問の構造の簡易性・操作性による効果
- 内観の限界(患者の特性による、動機づけなど)

面接者としての自己
(役割)

- 内観療法の基本的な知識
- 面接者としての言動
- 面接技術

組織管理

- 正確な記録
- 内観室の管理
- 面接者の勤務管理、内観者の担当者管理

当院の“標準”を
教育・伝承

- 内観面接の教育
- 技術の伝承

結果①どのように熟達者となるか？
②どのような熟達者になるか？

結果①
参加

結果①
指導者-被指導者
関係

エキス
パート

熟達者

結果①標準的知識・態度・技術
↓
葛藤・戸惑い
↓内省と実践
「経験ある面接者(熟達者)」

結果②内観療法の効果を理解
面接者として内観者に関わる自覚
組織管理、指導者・伝承者

内観療法の特徴と面接者について

・**実施している機関が少数**
　多くが初めて経験する
・**他の療法とは異なる背景**
　特定の理論を持たない
　内観面接者は内観者の内観をサポート
　面接者の姿勢も求められる

→面接者の在り方が問われる
　→→【面接者としての自己】の結果に関連

考察　内観面接者
教育システムのポイントを考える

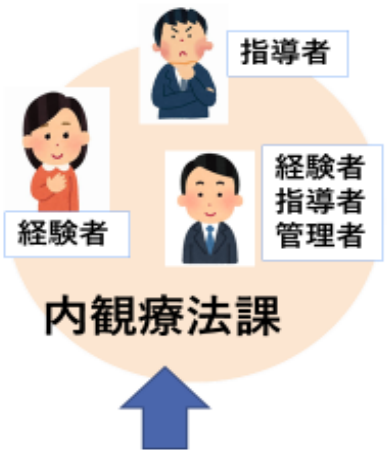
「何を？」「どのように？」学ぶのかが重要

- 内観療法を学ぶの場と学習者　　↓

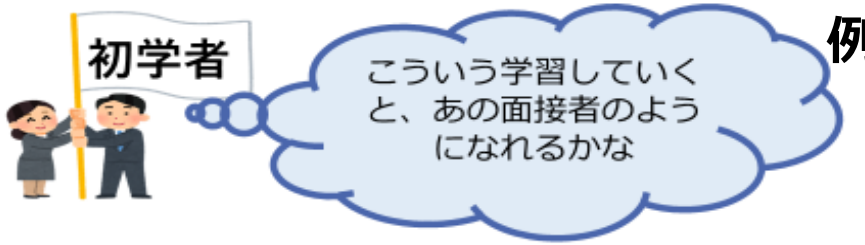
学びの場；ケースと通した実践の場

誰が；初めて内観療法を知り、学ぶ：初学者

⇒**管理的能力・教育・伝承は必須ではない**



【何を学ぶか？】
面接者として必要なこと(能力)を
具体的、わかりやすく記述



例『内観療法知識・態度・技術』

テーマの伝え方

面接室への入室作法

どのように学ぶのか？
学習プロセス・学習方法・評価

どのように学ぶか？

内観面接者のラダー

能力		評価	到達目標 ラダーⅠ(入職～)	ラダーⅡ(～〇年)	ラダーⅢ(～〇年)
基本的な能力	知識		観療法の歴史	〇〇	〇〇
			観記録	〇〇	〇〇
	態度	1 2	〇〇	〇〇	〇〇
	技術	1 2	模擬内観	〇〇	〇〇
ケアする能					
協働					
業人としての					

どのように学習のサポートを行うのか？

＊熟達者と新規学習者の学習制度
⇒ケース個人指導制度(SV)
＊経験者・熟達者と新規学習者の情報交換場
⇒オンライン・コミュニティーの構築

科学的な学習方法を組み合わせる
- Eラーニング
- 指導者担当制
- 年間での学習予定表

内観面接者の教育システムを議論するポイント

①内観面接者に求められている能力

具体的に初学者が何を学ぶのか？

⇒**目標を具体的に記述する**

②内観面接者を育てるシステム

学習者が学ぶためのより良い状況とは？

⇒ **学習者に合わせた段階的な学習計画**

⇒ **学びの習得度を把握できる仕組み**

⇒ **初学者・学習者のサポート体制**

本研究の限界と課題

第1の限界

内観面接者のプロとは？

正解や明確な答えのない内観に対して、内観の深まりと熟達者の関わり

第2の限界

語ることの難しさ

意識されたことのみ言葉する難しさ

今後の課題と展望

①グループアプローチによる研究

②一定の経験年数で区切った比較研究

(初学者・中堅・ベテランが獲得している能力)

⇒治療法としての内観療法の位置づけ

⇒内観面接者教育プログラム開発確立

⇒⇒内観療法面接者の在り方を考えることができる

ご清聴ありがとう
ございました

本研究におけるSCATの分析例

発言；断片化

- いやになった帰ろ
- あきらめのいいところがぼくの長所なんだ

注目すべき語句

- いやになった/あきらめのいいところが長所

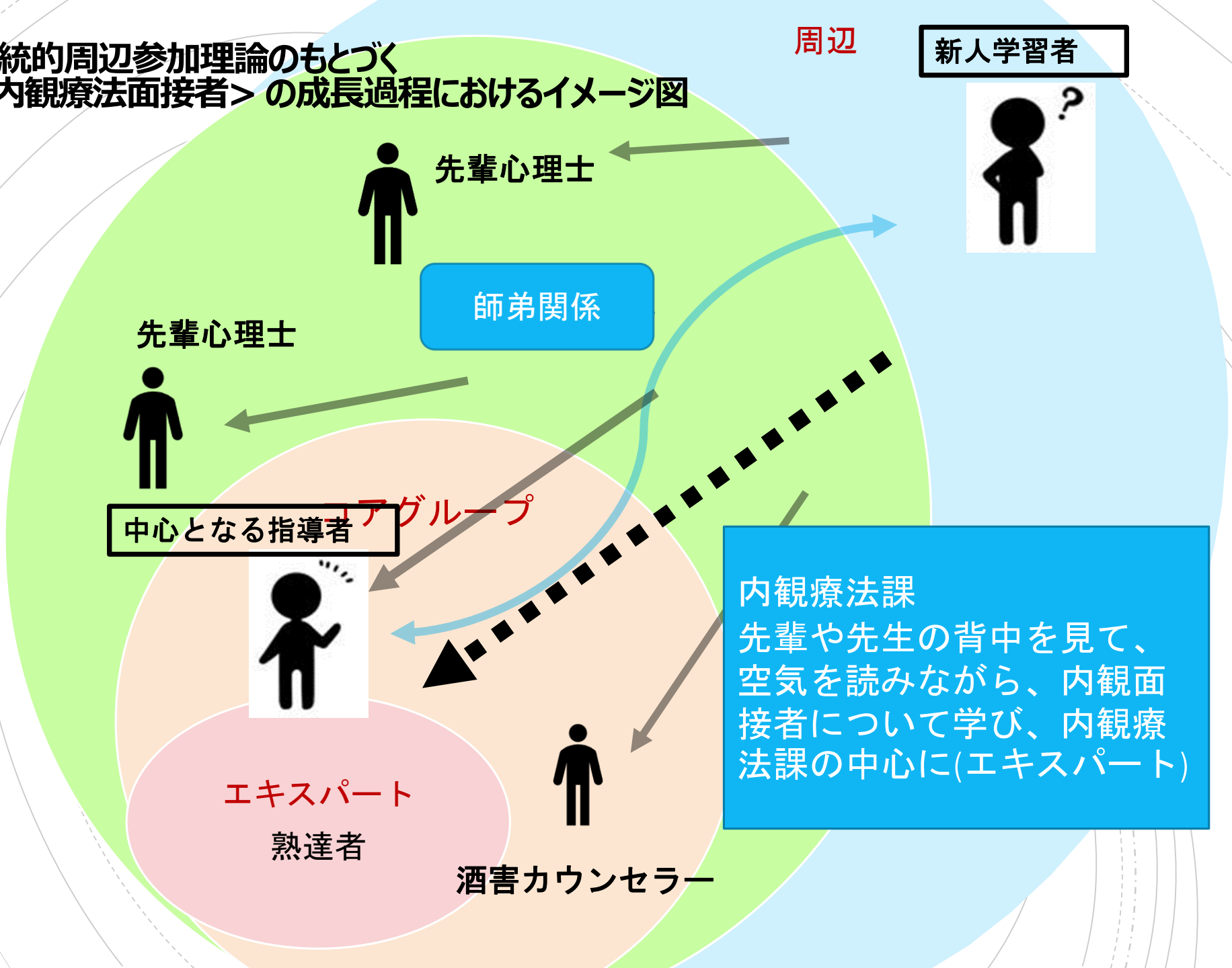
語句の言い換え

- もう嫌になった/疲れた/もう終わりにするのがいい/いい所

テクスト外の概念

- 物事の判断、妥協、割り切る、決断、座を見て法をとけ
- 感情と認知・行動、自己肯定感の維持

テーマ、構成概念

- **のびたは状況を見極め行動している**

正統的周辺参加理論のもとづく
<内観療法面接者> の成長過程におけるイメージ図